

平成12年10月6日、午後1時30分、鳥取県西部でマグニチュード7.3の地震が発生。日野町でも震度6強の揺れを記録しました。あれから20年。地域では、防災訓練の実施など、防災意識が高まり、災害に強いまちづくりが進みました。震災後に発足した黒坂地区自主防災委員会もその一つ。地震発生から復興までの歩みを間近で見つめてきた、同委員会の和田佳洋会長（小河内）に、次代を見据えた「防災」について話を聞きました。

―受賞おめでとございます。今の気持ちを聞かせてください。

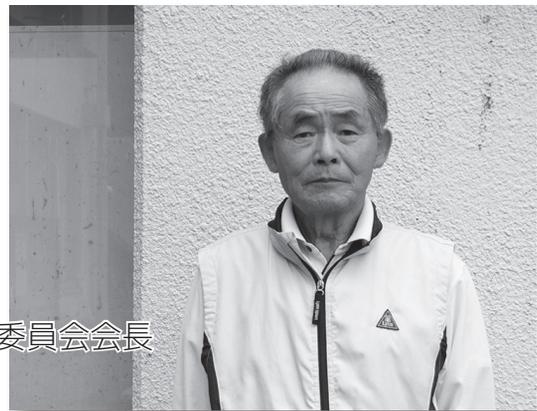
ありがとうございます。委員会の人みなでしてきたことが、こういう形で評価されたのは非常に喜ばしいことです。

長年、地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組んできたことが、評価につながったのではないかと感じています。防災委員だけで取り組むのではなく、やはり地域全体で取り組むこと。そこが大事だと思います。

―震災前の黒坂地区は、どのような地域でしたか？

当時から地域のコミュニティが活発でした。何かあればみんなすぐ集まってくるんです。例えば、町民体育祭の後も、みんなで弁当を持

ち寄って、「今日のリレーはあの人がんばってたね」「準備が大変だったけど、勝ててよかった」などの話で盛り上がりたり。そうした地域のつながり（＝地域コミュニティ）が、地震のときも生かされ、復興の足がかりになったと思います。今は当時と比べ、人も減り、高齢化も進んでいます。しかし、いざという時に周りの人同士で助け合



黒坂地区自主防災委員会会長 和田佳洋さん

黒坂地区自主防災委員会会長 和田佳洋さん

―黒坂地区自主防災委員会の成り立ちについて。

西部地震以前から、黒坂連合区で自主防災組織を立ち上げないといけないのではなにかという話が出ていました。その後、西部地震が発生したことで、その機運が高まり、震災から2年後の平成14年9月に、黒坂地区自主防災委員会が設立されました。

祝 黒坂地区自主防災委員会

「令和2年度防災功労者内閣総理大臣表彰」受賞



国では、防災対策に関して、特にその功績が顕著であると認められる団体に対して表彰を行っています。黒坂地区自主防災委員会は、震災の教訓を生かし、毎年行われる町の一斉防災避難訓練で、通信手段が絶たれた場合を想定した伝令による災害状況報告訓練を行うなど、多種多様な訓練を実施しています。また、防災リーダーの養成にも力を入れ、毎年研修会を開催しているほか、「ぼうさいくろさか」を毎年発行するなど、地域防災力の向上に努め、地域の防災体制の整備に多大な貢献をしています。その功績が認められ、今回の受賞となりました。

# 鳥取県西部地震から

## 特集

大きな地震を経験したことで、防災に対する意識が高まり、防災訓練や広報紙「ぼうさいくろま」の発行などの活動を通し、組織としても成長できたと思います。

自主防災の役割は、災害が起こった際の「初期的な備え」を行うこと。行政や消防の体制が整う前に仮避難所を設置したり、周りに声かけをして避難を促したり、地域が積極的に動いて、行政の手助けをすることが大切です。そのためには、自分の身は自分で守っていかねばいけません。自助、共助の精神を持って、行政と連携していくことが、今後ますます重要になってくるのではないかと思います。

― 今後の課題は？



やはり、地域の高齢化は切っても切り離せない問題です。例えば、今災害が起きても、高齢者はすぐに避難ができません。周りで助け合い、みんなが安全に避難できる環境をつくっていくには、行政が地域に暮らす要支援者を把握し、フォローアップしていく仕組みづくりが欠かせません。また、次世代に地震の教訓

を伝えていくことも、大切なことです。10月6日には、黒坂小学校で、震災時の映像を交えながら、地震の怖さや避難の仕方などを伝えました。災害はいつ、どこで発生するかわかりません。日ごろの心構えがとても大切です。そのためにも、当時の状況を次世代に伝え、語りついでいくことが、私たちの使命でもあります。これからも皆さんで、災害に強い地域をつくっていきましょう。

### 講演後の児童の感想

- 地震後の崩れた家や道路の画像を見て、すごく怖いと思った。
- これからももし大きな地震があったら、今日のことを思い出しながら避難できるようにしたいと思った。
- まちの様子が今と全然違うからびっくりした。地震があったら、自分や友だちの命を守る行動をしていけるようにしたい。



鳥取県西部地震を学ぶ会（黒坂小学校）

次  
の  
世  
代  
へ  
つ  
な  
ぐ  
た  
め  
に



▲当時の映像を真剣な眼差しで見つめる黒坂小学校の児童たち。崩れた家や墓の様子に、驚きの表情を浮かべていました。



◀▼大地震を想定した黒坂小学校での避難訓練。地震発生の放送が流れると、児童は机の下に隠れ、頭を守りながら校庭へと避難しました。

